

経営者インタビュー

西日本随一の大型クレーンでプラント工事を一貫受注 女性も活躍 設計や品質管理の専門職でスキル生かす

株式会社吉村 代表取締役 吉村 仁徳 氏



(株)吉村 吉村仁徳代表取締役

今回の「経営者インタビュー」で紹介するのは、大型のクレーンを保有し、宇部市でクレーンリースやプラント工事の設計・施工などを行う(株)吉村の吉村仁徳代表取締役です。インタビューでは経営理念に込められた思い、女性が活躍する職場づくりなどについてもお聞きしました。(聞き手は(株)山口銀行 中嶋羊治執行役員宇部支店長：4月1日付で執行役員岩国支店長に就任、インタビューは3月)

●運送業が発祥 クレーン、プラント工事へと 発展

(株)山口銀行 中嶋羊治執行役員 (以下、中嶋)：
最初に、御社の沿革についてお聞かせください。

(株)吉村 吉村仁徳代表取締役 (以下「吉村社長」)：
当社の前身は、祖父が1953年(昭和28年)に創業した(有)吉村小型運送店(1955年に(有)吉村運送に商号変更)です。運送を生業にしていたが、山陽新幹線などの建設工事の際に、こ

れからはクレーンだと感じ取ってクレーン作業も行うようになりました。その後、1993年に先代が(株)吉村を立ち上げました。

従来より(有)吉村運送として工事も行っていましたが、運送と名が付いていますので、お客様から「運送会社で工事ができるのか」と思われてしまうことがあったようです。そこで(株)吉村を立ち上げて、(株)吉村と(有)吉村運送の2社体制としました。

中嶋：クレーンは自走タイプだけでなく、分解して運搬するタイプもありますから、その面からも運送とクレーンは相乗効果がありますね。

吉村社長：おっしゃるとおりです。(株)吉村がクレーン作業も含めた工事、(有)吉村運送が物流という役割分担でスタートしたのですが、お客様の利便性向上のため、(株)吉村でも車両を保有し、(有)吉村運送でもクレーンを保有するようになってきました。分社化のメリットが徐々に薄れてきたため、2016年にはこれらを束ねて一本化しました。

中嶋：最大吊上能力750トンのクレーンを導入されましたね。その狙い等についてお聞かせください。

吉村社長：750トン吊りクローラークレーンは、兵庫県以西では当社しか保有していません。このクラスは橋梁工事やプラント工事、タワーマンションの建設などに使われます。地上最大揚程が208メートルありますので、タワー型クレーンが設置できない場所での作業にも適し、建屋の外側から搬入搬出を行う現場でも使われます。

関東には、この規模のクレーンを1社で複数台所有している会社があります。山口県内の仕事もそうした会社が請け負っていることがあり



750トン吊りクローラークレーン



ますが、私としては山口県の仕事は山口県の会社でやりたいという思いが強くあります。そのような思いもクレーンの保有を後押ししました。

●事業規模拡大の背景にある「常に挑戦する心」

中嶋：プラント工事などの大規模工事にも進出されていますが、契機になったのはどのような出来事だったのですか。

吉村社長：工事の受注は同業他社との競争になりますので、当初はクレーンに付加価値を付ける戦略を描きました。(株)吉村にクレーンを頼めば橋も架けてくれる、プラントも建ててくれる、といったイメージですが、なかなか浸透しませんでした。弟(吉村尚徳代表取締役副社長)とも話し込み、クレーンに付加価値を付けるのではなく、(株)吉村という会社自体に付加価値を付け

ないといけないということに気づき、約20年前に本格的にプラント工事を立ち上げて、現在に至っています。

中嶋：プラント工事を内製化されたことで価格競争力や信用力が強化されたと思います。大型クレーンも導入されるなど大型設備投資にも取り組まれています。拡大路線に踏み切られた背景などについて教えてください。

吉村社長：以前は大型機械をスポットで借りていましたが、2018年にバイオマス発電所のプラント工事に携ったのをきっかけに、大型機械を自社保有するようになりました。プラント工事は当初は配管工事だけの受注でしたが、お客様からいろいろなご要望をいただき、最終的には当社がプラント工事の一式を全て取り扱うことになりました。プラント工事を構成する一つひとつの工事は施行実績があったのですが、我々がトータルで担うことはありませんでした。副社長と二人で話し合った結果、やってみようかと決断しました。

その背景にあったのが、当社の経営理念にある「常に挑戦する心で、誇りある仕事を創造します」になります。この経営理念に基づいて未経験の仕事に挑戦することを決心し、そのために必要な大型重機は、将来的にプラント工事以外にも活用できると考え、自社保有する方向に舵を切りました。

中嶋：経営理念、経営方針について、詳しく教えてください。

吉村社長：経営理念・経営方針は、迷った時ほどの道に進むかを判断する拠り所だと思っています。先代が考えたものではありませんが、常に挑戦することができているかどうか。挑んでいるか。逃げ腰になっていないか。そういうことを自問するものでもあります。

【経営理念】

- 一、顧客満足の向上に努め、夢を具現化する会社を目指します。
- 一、「安全」「確かな技術」を基本に、プロの技術集団として地域社会の発展に貢献します。
- 一、常に挑戦する心で、誇りある仕事を創造します。

【経営方針】

1. 「安全最優先」という意識の浸透を図り、積極的な「安全対策」に取り組みます。
2. 教育と実践から、常に技術の向上に取り組みます。
3. 多様化する顧客ニーズに応えられるよう、最新の設備・機械の導入を図ります。
4. 法規制を厳格に遵守するとともに、誠実な企業活動を行うため一人ひとりの倫理観の涵養に努めます。
5. 環境負荷の低減に努め、建設副産物の削減や再資源化に努力し、地球環境保全に取り組みます。

同社の「経営理念」と「経営方針」

●兄弟で共同経営、地元経営者との異業種交流で地域課題と自社課題を解決

中嶋：社長に就任された経緯についてお聞かせください。

吉村社長：当社に入社したのは私より弟が先でした。私は3年ほど他社で働いて2003年に当社へ入社しました。2017年に(株)吉村の代表取締役役に就任しましたが、社長をやってくれと先代に言われた時は、私一人ではなく、弟と共同で経営することを条件として伝えて了解を得ました。その条件どおり、今も二人が代表取締役として会社を切り盛りしています。

中嶋：地元でのネットワーク作りにも尽力されたと聞いています。

吉村社長：私が山口県に帰ってきた時は、地元のことが右も左も分からなかったのですが、ご縁で青年会議所に誘われて、2006年に入会しました。それからは地元の方々と地域の課題解決を考えながら、自社課題の解決にも取り組んで参りました。地元のことを知るには、地元の団体に入って見聞きし、異業種交流することが大事だと思っています。

●時代の变化を感じ取り、先手を打った経営
中嶋：地元からの受注も増えていますが、改めて御社の強みについて教えてください。

吉村社長：プラント工事では、配管等を設計・製作して現地まで機材を運搬し、工事を行います。使用する重機まで含めて一連の流れを総合して受注できるというのは大きな強みであろうと思います。ただ、そうなったのはここ5～6年の話です。常日頃気をつけているのは、我々の

最大の敵はライバル会社ではなく、時代の変化だということです。お客様と話す中でニーズを感じ取って、速く判断するようにしています。そのための情報収集は常に心がけています。

●女性社員比率が3年で2倍に 働きやすい職場を整備

中嶋：人材確保や人材育成も御社の要になっていると思います。

吉村社長：人材教育の面では資格取得に向けて勉強できる機会を設けています。また、安全に関する教育にも力を入れています。

安全というのはいくらお金を掛けても買えるものではなく、日々の積み重ねです。全体では月1回の安全会議で教育しますが、個別の安全に関しては週1回の朝礼で周知します。安全パトロールも実施しています。

法律も変わってきていますが、法律も万能薬



ではありません。社員には法律を守るだけでなく、何が認められ、何が良くないかを明確に伝えることを大切にしています。

中嶋：大型クレーンを運転するスキルは、一般的なクレーンのスキルと異なるのではないのでしょうか。

吉村社長：免許は同じですが、操作は全く違いますので、メーカーさんに指導・トレーニングしてもらっています。この750トン吊りクローラクレーンの模型も使います。分解してトレーラー約50台で運びますので、模型で説明した方が、パーツを分解する手順や、各パーツのトレーラーへの効率的な積み方などをイメージがしやすいですね。

中嶋：業界としては男性のイメージが強いですが、御社では女性社員を増やされていますね。

吉村社長：女性社員が活躍できる会社になりたいと思っています。3年前は全社員のうち女性社員は10パーセントほどでしたが、今は専門職も含めて22パーセントに上がっています。設計をする女性社員は以前からいましたが、設計、品質管理など専門職で5名、経理と事務も併せると18名の女性社員がいます。今後は更に、女性が活躍できる職場にしていきたいと思っています。



中嶋：県内大学を卒業しても、大学での学びを活かせる職場がないから県外に就職する女性も多



750トン吊りクローラクレーンの模型で説明する吉村社長

いと聞きます。男性がやる仕事だと思われがちな職種でも女性が活躍されているのは、山口県経済活性化のためにも非常に素晴らしいと思います。

吉村社長：社内の環境をどう作るかというところは模索していますが、女性用のトイレを増やすなどのハード面の対策は実施してきています。また、有給取得率の高さも当社の特徴だと思います。休みを取りやすくなる環境づくりも行っており、女性の離職は殆んどありません。

● **第一志望の入社希望者増へ 誇りある仕事に邁進**

中嶋：SDGs や地域貢献についての考え方も教えてください。

吉村社長：品質マネジメントシステムに関する国際規格ISO9001の認証を2017年に取得し、環境対策、建設副産物への対策はそれに準じて行っています。

当社のロゴは約20年前にデザインしたのですが、環境に配慮する意味で青と緑を基調にし、さらに吉村の頭文字「y」と見えるようにしています。三角形と丸でクレーンのブーム

(アーム)と車両を示し、坂道を力強く上がっていくというイメージを表現しています。

地域貢献の一つとして、当社の近隣である宇部インターチェンジから中山観音までの道路沿いに街灯を設置しました。この辺りは夜になるとかなり暗くなりますが、意外と多くの高校生や中学生が自転車で通っていることに気づき、安全や防犯のために街灯を寄付することにしました。自治会長さんが市に掛け合ってくださいまして2018年に設置が完了し、「ヨシムラドリムロード」と名付けられました。

中嶋：将来展望についてお聞かせください。

吉村社長：私の夢として、株式会社吉村が第一志望だという入社希望者が来てくれるようにしたいです。第一志望になるような会社を目指したいと思っています。当社で仕事がしたいとい

う人を増やすには、福利厚生や就業規則の内容を充実させることも重要ですが、仕事の面でも胸を張って言えることがないといけません。今後も誇りある仕事に取り組んでいきたいと思ひます。

中嶋：経営理念や女性の活躍なども含め、非常に参考になる貴重なお話を聞かせていただき、誠に有難うございました。

■会社概要

名称：株式会社吉村
 創業：1953（昭和28）年8月
 設立：1993（平成5）年
 資本金：3,500万円
 従業員数：約85名
 事業内容：クレーンリース、プラント建設、大型重量品工事など
 本社所在地：宇部市大字川上1070番
 URL：<http://yoshimura-group.jp/>



社員の皆様と（後列左から3人目が株吉村 吉村仁徳代表取締役、右端が阿武良介執行役員設計部長、前列左端が仁井秀紀執行役員工場長、左から2人目が近藤邦朗執行役員工事部長、後列左から4人目が株山口銀行 中嶋羊治執行役員）